

令和8年度 実務経験のある教員の担当科目一覧

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
1	病気とくすり	1	前期	2	薬学A (必修)	大原宏司	大原宏司	概要：1人の患者について時間を追いながら、医療人としての倫理観と、患者に起こっている問題点の抽出、薬剤師として何が出来るか、何をすべきかを学習者自らが積極的に考える過程で、解決方法について学ぶ。グループ討議を通じてコミュニケーション力を育成し、他者と協働して問題を解決する。また、病院・保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。 目標（学習成果）：医療人としての知識・教養に基づいた倫理観を理解し、患者の状態や気持ちを理解し、問題を発見して、薬剤師として解決策を提案できるようになる。
							岸川幸生	
							渡邊文之	
							安部恵	
							高橋努	
							小山由美	
							鈴木慎一郎	
野伏康仁								
2	ヒューマンコミュニケーション	1	後期	1	薬学A (必修)	渡邊文之	渡邊文之	概要：対人関係を良好に築けるようになるために、他者と自分の両者への理解を深め、他者から情報を適切に収集し、チームワーク、情報の伝え方、話の聴き方などの基本的なコミュニケーションスキルを学ぶ。また、保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。 目標（学習成果）：医療人に求められる倫理観、ヒューマニティを養うことができる。
							安部恵	
							中島理恵	
3	特色教育入門Ⅰ（特色Ⅰ～Ⅲ）	1	後期	1	薬学B (必修)	田中佐知子	田中佐知子	概要：医療人としての高い使命感、倫理観を醸成するために、医療を受ける患者の思いを受け止られる医療人マインドを養うとともに、1年次から系統的に設置した特色教育の基盤について知る。授業の一部は、保険薬局や大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：患者のナラティブに基づいた医療の提供を心がける医療人マインドを醸成するとともに、特色ある薬剤師の職能を知る。
							西圭史	
							渡邊文之	
							安部恵	
							中島理恵	
4	医療倫理	2	前期	2	総合教育 (必修)	西圭史	柴田ゆうか	概要：医療現場で直面する倫理的問題について、理解を深め倫理的判断を行うための基礎を学ぶ。大学病院や保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師の視点から講義を行う。 目標（学修成果）：医療分野で薬剤師として行動するとき、患者や自身が直面する様々な倫理的問題が存在することを理解し、医療人としての自己認識を高め、生と死に関する問題に対処する方法を学び、倫理指針に基づいて思考する能力を持てるようになる。
							田中佐知子	
							西圭史	
							荒川基記	
5	特色教育入門Ⅱ（特色Ⅰ～Ⅲ）	2	前期	2	薬学B (必修)	青山隆彦	石橋徹	概要：特色教育入門Ⅰに引き続き、多様性のある薬剤師の職能について、それぞれの講義内容を理解すると同時に、自身の適性を把握して目指す将来像を踏まえた上で、上級学年になった際に選択する各特色教育科目や研究室配属の参考になる知識を培う。また各職能の特徴を各領域の講師が概説する。 目標：薬局薬剤師に関して、患者や患者家族を含めた地域のQOL向上に寄与できる視点を持つこと。病院薬剤師に関して、高度化する医療の中で個々の患者に最適な薬物治療をするための視点を持つこと。薬局経営に関して、経営のためのマーケティングやコミュニケーションのスキルを活用できる視点を持つこと。企業については、薬剤師の職能を臨床開発や臨床試験で活かすためのスキルと視点を持つこと。大学教員に関しては、教育者として研究者として後進の育成の含む薬剤師の在り方を学ぶこと。衛生行政機関に関しては、薬剤師の知識を活かした薬事・食品・環境などへの対応の重要性を学ぶこと。以上が目標である。授業の一部は、保険薬局や大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。
							大場延浩	
							大原宏司	
							加藤孝一	
							柴田ゆうか	
							中嶋順一	
							西圭史	
							宮坂知宏	
							渡邊文之	
							青山隆彦	
							安部恵	
							高橋努	
							及川直毅	
中島理恵								
6	特別講義Ⅱ	2	前期	2	薬学C (選択)	大場延浩	大場延浩	概要：さまざまな立場からの健康の維持や増進への貢献を知ることを通じて、自らの将来を考える。薬剤師になると生活習慣病を持つ患者に関わる機会は多いので、生活習慣病を持つ1人の患者の状況をふまえて、薬剤師として必要な病気や薬物治療の知識とは何かを考え、患者の状態や気持ちをふまえて何をすべきかを能動的に考える。これに関連して、医療機関で医師や薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場でのニーズを踏まえた講義を実施する。さらに、企業や行政といった立場からの健康に関するアプローチや、自らが疾患や薬のメカニズムの解明を通じて健康に寄与する研究を行う意義について学ぶ。 目標（学習成果）：薬剤師の多様な役割を理解し、将来の方向性を明確に考えられるようになる。
							加納久雄	
							小菅康弘	
							西圭史	
							和田平	
徳田栄一								
7	医療と法	2	後期	2	総合教育 (必修)	田中佐知子	加納久雄	概要：種々の医療関連法から社会における薬剤師の倫理観や行動規範、業務を紐解く。大学病院及び保険調剤薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：法を手掛かりに社会における医療の考え方や薬剤師の位置づけとその役割について理解する。
							岸川幸生	
							田中佐知子	
							安部恵	
							中島理恵	
野伏康仁								

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
8	疾患と薬物治療Ⅰ	2	後期	2	薬学A(必修)	小菅康弘	加納久雄	概要：将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、心臓血管系疾患、腎尿路系疾患および生殖系疾患の病態と、それらの治療に用いられる代表的な薬物の薬理作用、作用機序、副作用に関する基本的知識を解説する。また、 <u>大学病院等で臨床に携わっている教員が医療現場の医師としての視点からの講義も一部行う。</u> 目標(学習成果)：心臓血管系疾患、腎尿路系疾患および生殖系疾患の病態・薬物治療に関する基本的な原理を理解するために、それぞれの疾患の病態および治療に用いられる代表的な薬物の作用と作用機序に関する基本的事項を修得することを目的とする。
							小菅康弘	
							浅見 寛	
9	疾患と薬物治療Ⅲ	3	前期	2	薬学A(必修)	宮岸寛子	加納久雄	概要：中枢神経系の生理・病態及び薬物の薬効、作用機序について学ぶ。また、 <u>大学病院等で医師として実務経験のある教員が実際の医療現場の医師としての視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：医薬品の作用の過程を理解し、中枢神経系の生理・病態及び代表的な薬物の薬効、作用機序について説明できるようになる。
							徳田 栄一	
							宮岸寛子	
10	社会と薬学Ⅰ	3	前期	2	薬学A(必修)	渡邊文之	岸川幸生	概要：薬剤師業務に関わる制度やしくみ、地域における薬局の役割について概説する。 <u>地域薬局で薬剤師として実務経験がある教員(渡邊、安部、中島)、大学病院で薬剤師としての実務経験のある教員(岸川)が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：薬剤師の役割を理解し、医療に従事する各職種や関連する施設と円滑に連携できる方策を習得する。
							渡邊文之	
							安部 恵	
							小沼直子	
							中島理恵	
11	特別講義Ⅲ	3	前期	2	薬学C(選択)	西圭史	大原宏司	概要：2年時に学んだ医療倫理の知識をもとに、様々な事例に直面した状況を想定して、患者利益を最優先に考えながら医療者として執るべき言動について学ぶ。本授業はPBL(problem-based learning)形式で実施し、1回のPBLは1限と2限続けて実施する。ただし、第1回目はガイダンスとするため2限のみとする。以後は1限と2限連続で7回のPBLを実施する。また大学病院や保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標(学習成果)：医療現場で起こる様々な倫理的課題に対して、心理・倫理・法的な側面を含めた多角的観点からの検討を踏まえた行動がとれるようになるための基礎力を養う。
							岸川幸生	
							西圭史	
							林 宏行	
							日高慎二	
安部 恵								
12	医薬品情報学	3	後期	2	薬学A(必修)	大場延浩	石橋 徹	概要：医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を収集し、その情報を評価し、適切に情報提供を行うことについて学ぶ。EBM(Evidence Based Medicine)の実践の基礎となる薬剤疫学や臨床研究のデザインと臨床研究で得られた結果を読み解き、患者情報を踏まえ、医薬品情報を適切に活用できるスキルを身につける。 <u>病院・薬局で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：適切かつ必要な医薬品情報を理解し、医療の中で適切な情報の活用ができるようになる。
							大場延浩	
							中島理恵	
							花岡峻輔	
13	薬物動態学Ⅰ	3	後期	2	薬学A(必修)	辻泰弘	辻泰弘	概要：薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それを応用する基本的技能を身につける。吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。また、 <u>病院薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになる。
							青山隆彦	
14	薬物治療総論(特色Ⅰ)	3	後期	1	薬学B(選択)	柴田ゆうか	柴田ゆうか	概要：講義の概要は、8大疾患(がん、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症)とcommon disease(よくある病気)について、疾病の特徴およびその病態がもたらす生体変化に応じた薬物療法および患者管理方法について、 <u>病院および薬局で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師の視点から授業を実施する。</u> 目標：疾病およびその病態に応じた、薬物治療また患者管理方法を習得することが目標である。
							西圭史	
							林 宏行	
15	地域薬学概論(特色Ⅱ)	3	後期	1	薬学B(選択)	中島理恵	岸川幸生	概要：地域医療における薬剤師の役割に関する知識を学ぶ。また、 <u>病院および保険薬局等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：地域医療における薬剤師の役割を最新の知見を基に学び、実践するための基礎を作ることができる。
							榛葉繁紀	
							松崎桂一	
							渡邊文之	
							安部 恵	
中島理恵								
16	薬学と社会Ⅱ	4	前期	2	薬学A(必修)	中島理恵	日高慎二	概要：薬剤師業務に関わる制度、その根拠となる法律および薬剤経済学に関する基本的な知識と技能について学ぶ。また、 <u>病院及び保険薬局等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：社会において薬剤師として適切な行動ができるようになる。
							荒川基記	
							中島理恵	
17	EBMと薬物治療	4	前期	2	薬学A(必修)	岸川幸生	大原宏司	概要：3年次までに修得した疾患や薬物療法などを主とする総合的な知識を基に、実臨床での薬物治療の考え方を習得する。本授業はTBL(team-based learning)形式で実施する。TBL形式の授業は、active learning(教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し、解を見いだして行く学修)の1つである。従って、前もってLMSにuploadする症例(リード文)について、病態生理や治療、予後等の準備学習を行う。授業では、最初に症例疾患についての準備確認テスト(readiness assurance test; RAT)を行う。その後、グループ討議を経て情報の整理を行い、それを基に実臨床を想定した発展課題をSGD(スモールグループディスカッション)で討議し、その症例の最適解を探し出していく。また、 <u>病院で医師、薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の医療者の視点から講義を実施する。</u> 目標(学習成果)：診療ガイドラインとEBMの違いを理解した上で、個々の患者により良い薬物治療を提唱できるようになることを目標とする。
							加納久雄	
							岸川幸生	
							柴田ゆうか	
							西圭史	
							林 宏行	
							日高慎二	
野伏康仁								

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
18	薬物動態学	4	前期	2	薬学A（必修）	辻 泰 弘	辻 泰 弘 青 山 隆 彦	概要:薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それを応用する基本的技能を身につける。薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。また、 <u>病院薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標（学習成果）:薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになる。
19	実務事前学習 I	4	前期	2	薬学A（必修）	日 高 慎 二	大 場 延 浩 大 原 宏 司 岸 川 幸 生 柴 田 ゆうか 西 圭 史 林 宏 行 日 高 慎 二 渡 邊 文 之 安 部 恵 荒 川 基 記 高 橋 努	概要:薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得するとともに、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れについて学ぶ。また、 <u>大学病院や保険薬局等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標（学習成果）:患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍し、医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践できるようになる。
20	実務事前学習 II	4	前期	2	薬学A（必修）	柴 田 ゆうか	大 場 延 浩 大 原 宏 司 岸 川 幸 生 柴 田 ゆうか 西 圭 史 林 宏 行 日 高 慎 二 渡 邊 文 之 安 部 恵 荒 川 基 記 高 橋 努 中 島 理 恵 野 伏 康 仁	概要:患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。処方せんに基づく調剤:処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。また、 <u>医療機関で医師や薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場でのニーズを踏まえた講義を実施する。</u> 目標:薬剤師による医薬品の供給と管理への関わりを理解し、地域保健や医療で実践できるようになる。
21	ブレ実務実習 I	4	前期	1	薬学A（必修）	渡 邊 文 之	大 場 延 浩 大 原 宏 司 岸 川 幸 生 柴 田 ゆうか 西 圭 史 林 宏 行 日 高 慎 二 渡 邊 文 之 安 部 恵 荒 川 基 記 高 橋 努 鈴 木 慎 一 郎 中 島 理 恵 野 伏 康 仁 菅 野 淳 史 高 島 佳 純 花 岡 峻 輔	概要:患者との信頼関係を築き薬物治療を適正に支援できる薬剤師になるために、医療人に求められる患者や看護者への配慮事項および薬剤師の情報収集・提供の技法に関わる知識・技能・態度を培う。医療者の担い手が守るべき倫理規範や法令、健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が関わることの重要性およびインシデントやアクシデントを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。また、 <u>病院及び保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。</u> 目標（学習成果）:患者の身体状態を把握し、患者やその家族の心理状況に配慮した対応をすることができる。

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
22	高齢者医療概論（特色Ⅰ～Ⅲ）	4	前期	1	薬学B（必修）	榛葉繁紀	小菅康弘	概要：我が国の超高齢社会の現状と問題を把握し、高齢者特有の身体的、生理的、心理的特徴を理解することで、薬剤師ならびに社会人として高齢者の支援（医療、介護、保健、福祉）に関わるために必要な知識、態度を習得する。高齢者の包括的支援においては、多くの職種が関わる必要があるため、実務経験のある教員からチーム医療、多職種連携の重要性と薬剤師に求められる専門性について学ぶことで理解を深める。 目標（学習成果）：高齢者医療に関する現状と問題点を理解し、それを専門的な観点から他者に説明できるようになる。
							榛葉繁紀	
							林宏行	
							渡邊文之	
							青山隆彦	
							安部恵	
							進藤大典	
和田平								
23	分野別統合講義Ⅳ	4	後期	1	薬学A（必修）	三浦基文	大場延浩	概要：本講義は『分野別演習講義』と連携して、[E3 薬物治療に役立つ情報]、[B 薬学と社会]、[F 薬学臨床]の分野の基本的知識について学ぶ。具体的には[B, E2, E3, F]のSBOに沿った講義を行い、各自が修得しているはずの知識の確認・補強および再確認を行うという復習形式の授業である。また、 <u>大学病院及び保険薬局等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> また、前期科目である『分野別統合講義Ⅰ』および『分野別統合講義Ⅱ』、更には後期科目である『分野別統合講義Ⅲ』と連動し、薬学教育科目全体を網羅することにより1年生から学んできた学修内容を総括する。 目標（学習成果）：薬物治療、薬学と社会の関係、薬学臨床に関する知識を習得し、薬剤師としてのサポートが実践できる。総合教育科目及び薬学教育科目の学修を基盤とし、薬学教育モデル・コア・カリキュラムに準じて得られた知識を基に、論理的・批判的な思考により、課題に対し、見解を示す能力を育成する。
							大原宏司	
							加納久雄	
							岸川幸生	
							小菅康弘	
							柴田ゆうか	
							田口博之	
							田中佐知子	
							西圭史	
							三浦基文	
							宮坂知宏	
							渡邊文之	
							高橋努	
大橋祥世								
24	実務事前学習Ⅲ	4	後期	2	薬学A（必修）	岸川幸生	大場延浩	概要：薬学実務実習で関わる代表的な8疾患について、薬物療法の実践に必要な基本的事項を概説する。また、 <u>病院で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標（学習成果）：患者に安全・最適な薬物治療を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を習得する。
							大原宏司	
							岸川幸生	
							柴田ゆうか	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
安部恵								
荒川基記								
25	実務事前学習Ⅳ	4	後期	1	薬学A（必修）	大原宏司	大原宏司	概要：これまでの実務事前学習やプレ実務実習で学んだことををふり返るとともに、実務実習で想定されるようなさらなる現場指向の事例や問題の解決について考える。 目標：実習生として望まれる対応や解決策を提案できるようになる。また、 <u>いずれも大学病院を始めとする病院や薬局にて医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場における薬剤師の視点から授業を実施する。</u>
							加納久雄	
							岸川幸生	
							西圭史	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							安部恵	
荒川基記								

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
26	プレ実務実習Ⅱ	4	後期	2	薬学A（必修）	岸川幸生	大場延浩	概要：臨床現場で薬剤師に求められる態度や技術を学内にて演習する。また、病院・保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から実習を実施する。 目標（学習成果）：薬剤師の現場での技術と態度（情報検索、フィジカルアセスメント、調剤、無菌操作、調剤監査、患者コミュニケーション）を習得する。
							大原宏司	
							加納久雄	
							岸川幸生	
							柴田ゆうか	
							田中佐知子	
							西圭史	
							林宏行	
							日高慎二	
							渡邊文之	
							浅見覚	
							安部恵	
							荒川基記	
							高橋努	
27	医薬品評価と安全性監視（特色Ⅰ）	4	後期	1	薬学B（選択）	日高慎二	大場延浩	概要：医療分野の研究開発や製造販売後における医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に関する必要な知識について学ぶ。また、大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：医薬品の品質、有効性及び安全性を科学的知見に基づき適正かつ迅速に予測、評価及び判断することの重要性を理解し、科学技術の成果を人と社会に役立てることができるようになる。
							日高慎二	
28	分野別演習講義Ⅳ	4	後期	1	薬学C（選択）	大場延浩	大場延浩	概要：本講義は『分野別統合講義』と連携して、[E3 薬物治療に役立つ情報]、[B 薬学と社会]、[F 薬学臨床]の分野の基本的知識について学ぶ。具体的には[B, E2, E3, F]のSBOに沿った講義を行い、各自が修得しているはずの知識の確認・補強および再確認を行うという復習形式の授業である。また、大学病院及び保険薬局等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：薬物治療、薬学と社会の関係、薬学臨床に関する知識を習得し、薬剤師としてのサポートが実践できる。
							田中佐知子	
							西圭史	
							荒川基記	
							高橋努	
29	薬学実務実習	5	前期～後期	20	薬学A（必修）	西圭史	大場延浩	概要：薬剤師免許を取得する前に実施される薬学実務実習では、病院および薬局において医療現場の臨場感にふれ、医療における薬剤師の役割と責任を全般的に理解する。調剤ならびに服薬指導など、薬剤管理を適切に行い、安心で安全、適切な薬物療法に貢献し、患者や医療スタッフおよび社会から信頼される医療の担い手になるために、薬剤師として必要な知識、技能、態度を習得する。実務実習においては、がん、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症といった代表的8疾患については必ず学ぶこと。実務実習では、認定実務実習指導薬剤師養成研修を全て修了した実務実習指導薬剤師が、中心となり、本実習を指導する。病院実習、薬局実習ともに、日本薬学会薬学教育改革大学人会議で作成した実務実習モデルコアカリキュラムに基づき、それらの到達目標および方略に準拠して実施される。 目標（学習成果）：「病院実務実習」においては、病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤や製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的な知識、技能、態度を習得する。「薬局実務実習」においては、薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤や医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的知識、技能、態度を習得する。
							田中佐知子	
							西圭史	

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
30	実務薬学総論	6	前期	2	薬学A (必修)	柴田 ゆうか	石橋 徹	概要：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な事項を再度修得する総合的な科目として位置づけ、薬剤師として国民の健康増進に寄与するために行われている取り組みについて理解する。また、病院、薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の医療者の視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：5年次までに学んだ内容を振り返り、薬学の知識を統合して問題解決に資する知識を高めることができる。
							大場 延浩	
							大原 宏司	
							岸川 幸生	
							柴田 ゆうか	
							田中 佐知子	
							西 圭史	
							林 宏行	
							日高 慎二	
							渡邊 文之	
							安部 恵	
							荒川 基記	
							高橋 努	
							鈴木 慎一郎	
31	緩和医療 (特色 I)	6	前期	1	薬学B (選択)	岸川 幸生	岸川 幸生	概要：現代の医療において緩和ケアを必要とする患者は多い。緩和ケアの目標は、患者のQOLを向上あるいは維持することである。そのため、緩和ケアに従事する者には、患者のQOLを低下させる要因となる痛みやその他の苦痛に対応できる能力が求められる。この科目においては、大学病院で医師や薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 目標（学習成果）：緩和ケアについての理解を深め、緩和ケアにおける薬剤師の役割を習得する。
							宮岸 寛子	
32	実践感染対策と栄養サポート (特色 I)	6	前期	1	薬学B (選択)	林 宏行	西 圭史	概要：講義の概要は、病院で医師、薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の医療者の視点から、 <u>栄養管理方法および感染症とその治療についての講義を実施する。</u> 目標：栄養管理と感染症およびその治療法について、最新の診療ガイドラインに則り、実際に施設内で行われている治療方法が理解できるようになることを目標とする。
							林 宏行	
							高橋 努	
							鈴木 慎一郎	
33	急性期医療と薬学的管理 (特色 I)	6	前期	1	薬学B (選択)	日高 慎二	大場 延浩	概要：「病気の進行を止める」又は「病気の回復が見込める目処をつける」までの間に提供する医療において、代表的な疾患に関する患者情報の把握と医薬品情報を収集について学ぶ。また、 <u>大学病院等で薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標（学習成果）：最善の治療計画を立案して薬学的ケアの実践に繋げることができるようになる。
							加納 久雄	
							柴田 ゆうか	
							日高 慎二	
34	応用薬剤学 (特色 I)	6	前期	1	薬学B (選択)	鈴木 豊史	鈴木 豊史	◆授業の概要 医療に使用される薬物は、各種剤形に製剤化されたものである。製剤化においては、薬物の化学的、物理的、生物学的特性を明らかにし、広範な薬剤学の知識を集結して、活性を有する成分の有効性と安全性を確保するだけでなく、患者の使いやすさにも考慮する必要がある。さらに、医療現場では薬物適正使用の視点からも、薬物動態モデルを構築して、薬物投与量、投与間隔の立案ができる能力は必要である。このように、製剤特性とその動態特性の両者を正しく理解し、把握することは、薬剤師の特長であるとともに、特色教育 I が目指す「最新かつ広範な薬物療法の提案能力を修得する」ために必須な要素の1つである。【応用薬剤学】では、創薬・創剤技術者として医薬品の研究・開発に従事し、あるいは薬剤師として医薬品の適正使用を実践するうえで基礎となる、製剤の開発動向と薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識について学ぶ。また、大学病院及び保険薬局等で医師または薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。 ◆目標（学習成果）【応用薬剤学】では、5年次までの特色教育 I で学修した薬物治療に特化した知識を基礎に、これらの知識を薬剤学分野に応用できることを目標としている。<薬剤学>の発展科目と位置づけ、鼻腔内投与製剤に焦点を絞り、製剤の特徴や製剤の持つ社会的役割・意義・波及効果について考えながら、世界的な市場、日本未発売の製剤、DDS技術、投与装置（デバイス）などの動向をインターネットを用いて検索・調査し、プレゼンテーションを通じて議論できることを目標とする。<薬物動態学>の発展科目と位置づけ、薬物治療の適正化へ寄与するために、薬物動態/薬効解析のモデルを用いて、薬物投与量、投与間隔の立案ができるための知識を習得することを目標とする。
							辻 泰弘	
							青山 隆彦	

No.	科目名	年次	学期	単位	科目区分	科目責任者	担当者	授業概要及び目標
35	薬局経営学（特色Ⅲ）	6	前期	1	薬学B（選択）	渡邊 文之	渡邊 文之 高橋 努	概要：経営に関連のある様々な分野の最新知見を学ぶ。また、 <u>薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義・演習を実施する。</u> 目標（学習成果）：病院および薬局の経営・管理のために必要な基本的スキルを理解することができる。
36	薬剤経済学（特色Ⅲ）	6	前期	1	薬学B（選択）	安部 恵		概要：薬剤経済学の分析方法や考え方を通して、医薬品、薬物療法、ひいては薬剤師職能の社会的価値を検討する方法を学ぶ。また、 <u>薬局薬剤師として実務経験のある教員が実際の医療現場での問題点を視野に入れ講義を実施する。</u> 目標（学習成果）：薬剤経済学の分析方法や考え方を理解し、薬剤師職能の社会的価値を検討できるようになる。
37	医薬品マーケティング（特色Ⅲ）	6	前期	1	薬学B（選択）	渡邊 文之	渡邊 文之 中島 理恵	概要：企業が永続的に利益を得るためにマーケティングのスキルをどのように活用しているかを学ぶ。また、 <u>病院及び保険薬局で薬剤師として実務経験のある教員が、実際の医療現場の薬剤師としての視点から講義を実施する。</u> 目標（学習成果）：企業における医薬品及び医療機器マーケティングの考え方等を理解することができる。

75

以上、実務経験のある教員等による授業科目数の合計は37科目（合計75単位）